



~13
3938
8





假名文章娘節用三編下之卷

第九回

江戸

三文舎自樂補述

朝夕ふあくの落葉を雨と見つ冬どが若る寂しとわらわ
空も雨雨月彷彿人もある草の蔭へたまきひ来てきき
多鶴ふあしぬ子雀のちよとよと啼声を聞かすは
表は深ふ紫雲ハ小三の区張を吊りふかお人今もあを
るぐさあてもまご妙子けの泣てハ母を尋ぬる少ハ不便の

田

冊 八
號 九
函 十

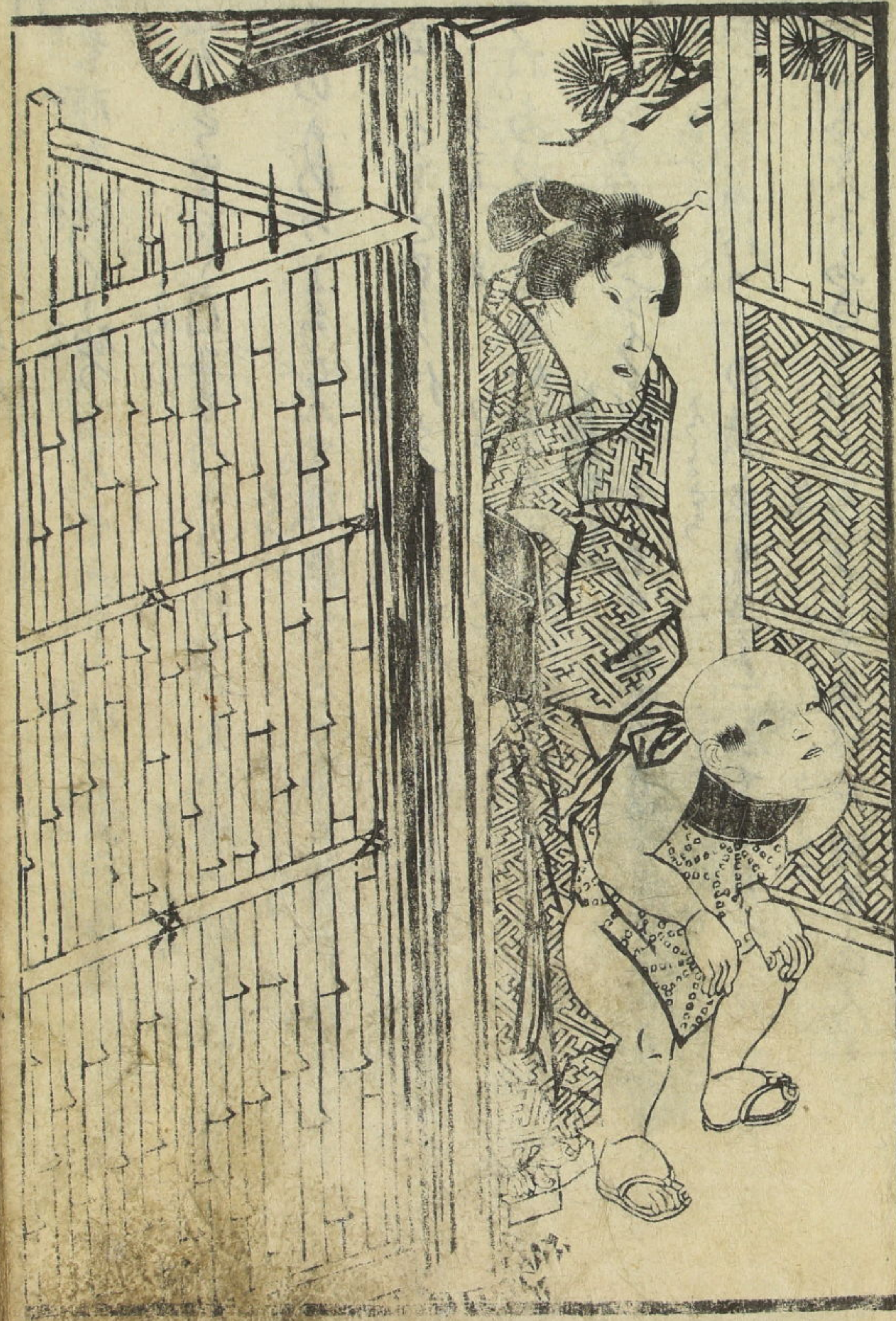
門 13
39:13
8

Faint handwritten text in the right margin, possibly bleed-through or a separate note.

つらうが案トりとして。美見ハくても糠小打。夏麿ふかま
ぐひまうぬが候よと。捨て置てもあふまらば。みおもどろく
磨るけと。捨けて切とぬる理。その精と落とふら。磨るの
世との合せ磁でハ。くそも切まることでのいひと。推をとして見る
附と。くろがむの荒磁ふかけても。切りぬらぬ。浮世の義理
か雪との小孫娘と。祝言をさせしころ。くそも保つぬ。縁と
あふこゆゑ小孫娘ぬわつと。くろつてあつと。げらふこと。の口へ
くづねのさ。くづめてあふこと。その序で。くろつと。たせむ。せぬ。孫娘が

糸のうへ。かうくひ小伏あま。ば。長ふと。へい。ぬるど。ふ。い。わ。でも
あろうが。あま。が。あ。る。どう。ぞ。縁。切。て。く。さ。ま。と。と。お。精。を。し。で
い。の。こ。と。を。ば。あ。て。る。く。ら。ぶ。お。し。せ。る。う。う。美。理。と。恩。と。を。あ。伏。て。
あ。つ。つ。の。あ。ひ。切。ち。あ。ま。よ。と。い。つ。と。い。附。の。う。ら。が。約。う。ま。い。と。さ
あ。ま。ろ。て。不。使。な。い。ふ。こ。と。あ。く。む。の。中。さ。ぞ。つ。つ。う。ろ。う。懸。く。ろ。
と。あ。ま。ろ。う。も。て。保。ま。る。と。と。浮。世。が。候。あ。る。あ。る。う。ら。容。れ。と
い。ひ。利。産。と。い。ひ。や。さ。い。む。の。生。ま。と。つ。き。孫。娘。と。支。持。し。く。わ。つ
く。ら。さ。ぞ。マ。ア。と。が。ひ。不。嫌。く。あ。ろ。と。あ。つ。と。た。め。り。や。と。ま。も。あ。ま。ろ。う。

信長用





信之跡を尋ねて。名考に美全さゆふ。丸内不和順の奉をひき。
 お雪の積もも子を焼けて。幾千番代嫁りく。最良高栄え
 ける。ゆる目出さる。因ふよりて。金五弟分實の祝。文の疾も事不
 の。勃然とらの附先さきこく。永師の家小の貴子とる。その身ハ
 赤み赤み入る。祝法券屬不對面して。春よ仲ふふこの身の果
 夢て慈愛の涙ふく。頻ふを常と親むるものあり。終ふ發を刺
 仏門ふ入りて。身を雲水小ま存す。法を巧術小出るとるん。

假名文章娘節用三編下之卷大尾

布袋六

是所吉式と書す。其の初
 門業人此一辭より有き
 物色念のともひ。以て意地
 中をまきく。中
 初より目のぬめり。誤
 病の病



Handwritten Chinese characters in black ink, likely the title or author's name, arranged in vertical columns. The characters are partially obscured by the blue-green patterned paper.